

奈良県立医科大学 大学院看護学研究科

University Guide

2026



奈良県立医科大学

Nara Medical University





博士前期課程

教育研究上の理念

奈良県立医科大学は、「豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指す」という教育理念のもとに、教育・研究を展開し地域社会に貢献してきた。本研究科博士前期課程では、この理念を基盤に、豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得・発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を有する看護職者の育成をめざす。

教育目的

- (1) 優秀かつ柔軟な資質を併せもち、研究・教育・臨地のいずれの領域においても指導者となり得る人材の育成を図る。
- (2) 生命の尊厳の深い理解を基盤とし、専門性の高い看護実践能力と教育研究能力を備えた、看護学実践の専門職者、管理者、教育者を育成する。
- (3) 人間性豊かな高い倫理観を有し、生涯にわたって自ら学び、自立して研究ができる医療人の育成に努める。
- (4) 看護学における基礎的な研究能力を養うとともに、地域の特性を踏まえて、看護学と生命科学・社会科学の調和を図る。

アドミッション・ポリシー

Admission Policy

本研究科博士前期課程では、高度な実践能力と基礎的な研究能力を有する看護職者を養成するため、次のような資質を持った人を求めています。

- 1 人間に対する深い関心と生命倫理や医療倫理を身につけている人
- 2 専攻分野における基礎知識を身につけている人
- 3 自ら進んで課題に取り組む意欲と探究心がある人
- 4 看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会に貢献する意志があり、看護学関連分野を学習してきた人

カリキュラム・ポリシー

Curriculum Policy

- 1 教育理念・目的に基づき、豊かな感性、人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化、専門分化および多様化していく医療に要求される知識や技術を的確に習得・発展させながら、実践科学としての看護学を探究する高度な実践能力と基礎的な研究能力を育成するために必要なカリキュラムを配置する。
- 2 看護学コースと助産学実践コースを置き、すべての学生が幅広く専門知識を修得するために共通科目を配置する。看護学コースでは各専門分野に必要な能力を養成するために、特論、演習、特別研究の授業科目を配置する。さらに助産学実践コースでは助産師となるために必要な特論、演習、実習科目を配置する。

ディプロマ・ポリシー

Diploma Policy

本大学院に2年以上（優れた研究業績を上げた者については1年以上）在学し、授業科目について、看護学コースのうち、論文コースにあっては30単位以上修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格することが、高度実践コースの高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）にあっては40単位以上、同コースの周麻酔期看護師教育課程にあっては46単位以上修得し、かつ、特定の課題についての研究成果（以下、「課題研究成果物」という。）の審査及び最終試験に合格することが、助産学実践コースにあっては、61単位以上修得し、かつ、課題研究成果物の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。

- 1 看護学に関する確かな専門知識と深い学識を修得している。
- 2 生命科学、社会科学、情報科学などの知識を活用して研究能力が発揮できる。
- 3 看護専門職者（論文コース修了者）として、地域医療での指導能力を発揮できる。
- 4 看護専門職者（高度実践コース修了者）として、高度な実践能力と指導能力を発揮できる。
- 5 看護専門職者（助産学実践コース修了者）として、地域における周産期医療での指導能力と高度な実践能力を発揮できる。

看護学コースは、看護実践応用学、がん看護学、高齢者看護学、小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学、在宅看護学、薬理と看護学、実践基礎看護学、女性健康・周産期看護学、健康科学の11の専門領域を設けており、人々の多様な健康ニーズに応えるための看護学を学ぶことができます。カリキュラムは、ヒューマン・ケアを基盤とし高度な看護実践能力と保健福祉医療のリーダーとして社会に貢献できる研究能力・指導能力を培う科目を配置しています。現在のキャリア向上に役立つべく、働きながら学ぶことが可能です。

高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野）

保健・医療・福祉現場において、複雑な健康問題を有する患者にケアとキュアを統合し、卓越した直接ケアを提供するとともに、相談、調整、倫理調整、教育及び研究を行い、ケアシステム全体を捉える思考力と看護実践力を向上させる高度実践看護師を養成する課程です。

◆取得できる資格：日本看護協会 高度実践看護師教育課程（専門看護師）認定審査受験資格

高度実践看護師教育課程（がん看護分野）

がんの病態・診断・治療に関する最新の知見、がん看護の基盤となる概念・理論、がん医療の現状と課題を学び、がんサバイバーとその家族が抱える臨床上の課題について探求します。また臨床実習を通して、複雑な健康問題を抱えるがん患者および家族に対するケアとキュアを統合した卓越した直接ケア、相談、倫理的調整などの役割を実践し、高度実践看護師としてケアシステム全体を捉える思考力を培うよう支援します。

◆取得できる資格：日本看護協会 高度実践看護師教育課程（専門看護師）認定審査受験資格

周麻酔期看護師教育課程

麻酔科の医学的知識を集中的に学び、看護師として麻酔科医と協働して患者の麻酔管理を行う周麻酔期看護師を養成する課程です。修了時は本学大学院看護学研究科周麻酔期看護師として認定されます（本学認定）。

助産学実践コースでは、高度実践能力と研究力を身につけた助産師の育成を目指しています。

本学附属病院のNICU/GCUやMFICUを含む総合周産期母子医療センター、多くの熟練助産師の活躍する助産所など、充実した実習環境を備えています。

看護学コースで修める修士号取得のための授業に加え、助産師国家試験受験資格のための授業を受けることができます。

◆取得できる資格：助産師国家試験受験資格、受胎調節実地指導員、新生児蘇生法「専門」Aコース修了認定証

高度実践コースの高度実践看護師教育課程及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者とします。

時間割（参考：令和7年度）

Timetable

前期		1(9:00~10:30)	2(10:40~12:10)	3(13:00~14:30)	4(14:40~16:10)	5(16:20~17:50)	6(18:00~19:30)	7(19:40~21:10)
MON	1年	周産期看護学特論	女性健康学特論	助産学特論Ⅰ	助産学特論Ⅳ	助産学特論Ⅳ	小児看護学特論 高齢者看護学特論 精神看護学特論 在宅看護学特論 助産学実習Ⅰ	小児看護学演習 高齢者看護学演習 精神看護学演習
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	助産学実習Ⅴ			
TUE	1年	助産学特論Ⅴ	助産学特論Ⅴ	助産診断・技術学演習Ⅰ	助産診断・技術学演習Ⅰ 周麻酔期看護学特論Ⅰ	周麻酔期看護学特論Ⅱ 英文講読	○看護理論	○看護研究方法論
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	周麻酔期看護学実習Ⅱ	助産学実習Ⅴ		特別研究 課題研究	特別研究
WED	1年	助産学特論Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅳ	助産学特論Ⅱ 助産学特論Ⅵ 助産診断・技術学演習Ⅳ	周産期看護学演習 ●看護倫理学	女性健康学演習	●アドバンストフィジカル アセスメント	心と脳の発達学特論 睡眠学特論 ●病態生理学	心と脳の発達学演習 睡眠学演習
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ				
THU	1年	助産学特論Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅳ	助産学特論Ⅱ 助産診断・技術学演習Ⅳ	助産診断・技術学演習Ⅲ	助産診断・技術学演習Ⅳ 助産診断・技術学演習Ⅲ	助産学特論Ⅲ	医の共通科目 / 衛生社会医学 看護実践応用学特論 公衆衛生看護学特論 薬理と看護学特論 実践基礎看護学特論	看護実践応用学演習 公衆衛生看護学演習 薬理と看護学演習 実践基礎看護学演習
	2年	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ	周麻酔期看護学実習Ⅲ				
FRI	1年	助産診断・技術学演習Ⅱ	助産診断・技術学演習Ⅱ	助産診断・技術学演習Ⅱ 在宅看護学演習	助産診断・技術学演習Ⅳ 周麻酔期看護学演習Ⅰ	助産学特論Ⅱ	助産学実習Ⅰ	
	2年				助産学実習Ⅴ			
後期		1(9:00~10:30)	2(10:40~12:10)	3(13:00~14:30)	4(14:40~16:10)	5(16:20~17:50)	6(18:00~19:30)	7(19:40~21:10)
MON	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅲ	助産学実習Ⅲ	小児看護学演習 高齢者看護学演習 精神看護学演習	地域医療学
	2年							
TUE	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	周麻酔期看護学演習Ⅱ	周麻酔期看護学特論Ⅲ 在宅看護学演習	
	2年						特別研究 課題研究	特別研究
WED	1年	周麻酔期看護学実習Ⅰ 周産期看護学演習	周麻酔期看護学実習Ⅰ 女性健康学演習	周麻酔期看護学実習Ⅰ	周麻酔期看護学実習Ⅰ	●臨床薬理学	精神保健学 周麻酔期看護学特論Ⅳ	心と脳の発達学演習 睡眠学演習
	2年							
THU	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅲ	看護実践応用学演習 公衆衛生看護学演習 薬理と看護学演習 実践基礎看護学演習	
	2年							
FRI	1年	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅳ	看護情報学	
	2年							

○ 看護学専攻で必修の共通科目 ● 高度実践コースのみ必修の共通科目 ※表中の1コマは30時間分の授業を示す。

※「看護管理論」は前期の集中講義として開講。「家族看護学」は後期の集中講義として開講。授業は担当教員と履修者が相談のうえ、上表の記載時間以外に開講される場合がある。
「医の共通科目」「衛生社会医学」の2科目は医学研究科（修士課程）との合同授業。

看護学コース

● 健康科学 Health Science

教授 太田 豊作 心と脳の発達学専攻
Human Mind and Brain Development

人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から研究し、その両者の統合を図ります。特に児童思春期の神経発達症や精神疾患を中心に生物学的研究と心理社会的研究を行っています。

研究テーマ

「注意欠如・多動症(ADHD)に関する事象関連電位の研究」
「注意欠如・多動症(ADHD)に関する光トポグラフィー(NIRS)の研究」
「自閉スペクトラム症に関する臨床的研究」
「神経発達症・精神疾患の家族支援」
「児童思春期精神疾患の発症予防に関する研究」

教授 山内 基雄 睡眠学専攻 Sleep Medicine

睡眠に関連した疾患は非常に多彩です。睡眠呼吸障害、不眠症、過眠症などが含まれますが、どれをとっても診療には医師、看護師、臨床検査技師、臨床心理士など多職種連携が必要であり、多職種連携を活用した個別化治療を構築する研究を行っています。とりわけ睡眠時無呼吸症候群のCPAP治療のアドヒアランス改善は喫緊の課題です。また不適切な睡眠環境は治療に影響するため睡眠衛生指導にも取り組んでいます。

研究テーマ

「睡眠時無呼吸症候群の疾患多様性と個別化治療の構築」
「CPAPアドヒアランスの現状と改善策」
「各世代における睡眠衛生指導に関する研究」

● 薬理と看護学 Pharmacology and Nursing Science

教授 松田 明子

この研究分野では、在宅・外来・病棟のあらゆる場の治療を受けている療養者に対する看護援助に対して薬理学的視点や安全管理等の視点で分析し看護の役割について探求します。また、看護実践能力の向上を目的とした看護教育に関する研究では、看護薬理学教育に関する研究について探求しています。

研究テーマ

「薬物療法を受ける患者への支援に関する研究」
「薬理教育に関する看護教育の研究」

● 実践基礎看護学 Fundamental Nursing

教授 升田 茂章

実践基礎看護学では看護の技に着目し、エビデンスの構築や、看護技術の開発とその評価を行い、エビデンスに基づいた看護技術を普及し、よりよい看護を目指します。注射技術のエビデンス構築や分子標的治療薬による有害事象への看護技術に関する研究に取り組んでいます。また、最先端技術の看護への適応により看護活動が拡大する中で、根源的な「看護とはなにか」を問い続ける研究に取り組めます。

研究テーマ

「前立腺がん患者の治療選択に関した研究」
「化学療法を受ける患者の手足症候群への看護技術に関する研究」
「注射技術のエビデンスに関する研究」

● 看護実践応用学 Applied Practical Nursing Science

教授 石澤 美保子

臨床スキンケア関連、褥瘡および慢性創傷の予防と管理、ストーマや瘻孔、排泄管理の3分野(Wound:創傷、Ostomy:ストーマ、Continence:失禁)を研究しています。この3分野は、年齢や疾患に関わらず、すべての人に対して実践されるケア領域でもあります。研究内容は、看護を科学的にとらえ、いかにその根拠を立証していくかの視点で行っています。

研究テーマ

「仙骨部褥瘡における創改善と周囲皮膚の水分バリア機能変化との関連」
「ストーマ局所条件と装具の耐久性の関連」
「医療関連機器圧迫創傷の予防と管理」 ほか

● 高齢者看護学 Gerontological Nursing

教授 澤見 一枝

加齢に伴う機能変化の進行速度は個人差が大きいため、心身および社会的機能面への影響も個人で大きな開きがあります。多様な高齢者の生活の質を維持するため、新しい知見が求められています。また、認知症は世界的に増加しており、WHOから認知症予防ガイドライン2019が出されていますが、予防的介入のエビデンスレベルは不十分とされています。そこで、認知症予防や認知症のケアにおける取組の効果を検証しています。

研究テーマ

「高齢者の介護予防、認知症予防、認知症高齢者のケア」

● 精神看護学 Psychiatric and Mental Health Nursing

教授 奥田 淳

精神看護学は、こころの健康問題を持つ人がその人らしさを取り戻し、その人が希望する生活を送ることを支援する学問です。こころの健康問題を持つ人への地域支援における課題を明らかにし、看護師が実践する支援のあり方について研究しています。また、医療観察法の対象となる人への支援についても研究しています。

研究テーマ

「精神に障害がある人への地域支援に関連した研究」
「医療観察法の対象となる人への支援に関連した研究」

● 小児看護学 Child Health Nursing

教授 川上 あずさ

小児看護の対象は、小児(子ども)と家族です。子どもと家族は発達を続けている存在ですが、障がいや病気によって、発達や生活は大きく影響を受けます。発達と健康、生活、環境に関連させて検討することで、看護の視点で子どもと家族の支援を探求していくことが可能になると考えます。障がいや病気のある子ども、そのきょうだいや家族は、力(能力)をもち、さまざまな方法で家族成員を「まもり」ながら生活しています。しかし、このことが負担となる状況やバランスが崩れることが生じます。これらに着眼した支援方法の研究を進めています。

研究テーマ

「発達障害のある子どものきょうだいの育ち」
「病気や障がいのある子どもと家族の支援に関する研究」

先輩からのメッセージ

From Graduates

看護学コース

R4.3 修了 松田 雅江



大学院では、先生方の丁寧な指導と支えもあり働きながら修了することができました。私は研究を通して、看護実践の徹底した根拠を立証し深めることができ、また自分の看護を振り返るよい機会となりました。今では、自信をもって看護の提供と後輩への指導に生かされています。

助産学実践コース

R6.3 修了 宮下 織衣



本学では、先生方の温かなサポートのもと実習や研究に安心して取り組みます。助産院での継続事例実習では、地域で活躍する熟練助産師の指導のもと自身の助産観を深められました。助産師として新たな経験を毎日で、大学院での学びは現在の臨床での助産実践につながっていると感じています。

● 公衆衛生看護学 Public Health Nursing

教授 坂東 春美

公衆衛生看護学は、健康な人も病気を抱える人も全ての人々を対象とし、身体的・精神的・社会的健康を衛る実践と学問分野です。私の研究は、公衆衛生上の諸課題に対し健康な状態を困難にしているリスクファクターを見つけ出し改善することを重視した研究のみならず、困難な状況下にありながらもうまく対処をしている例外的な成功者の解決手法に着目するPositive Deviance Approachを採用し、人々の健康と生活の維持・向上のための研究をすすめています。

研究テーマ

「公衆衛生看護活動に関する研究」「母子保健に関する研究」
「Positive Deviance Approachに関する研究」

准教授 堀池 諒

公衆衛生看護学はとても面白くワクワクする学問です。私はGIS(地理情報システム)を使った研究を行っています。GISはPCでデジタルな地図を作り様々なデータを重ねます。人口や社会資源のマッピングに加え、人流や建物の3Dデータ、気候変動観測衛星が観測したデータなど、公衆衛生に関するあらゆるデータを統合し地域の可視化や分析を行います。保健医療福祉分野における意思決定を促進し、地域全体を健康へと導くことに貢献します。

研究テーマ

「GISを用いた保健医療福祉分野に関する研究」
「健康危機に関する研究」
「根拠に基づく政策立案に関する研究」

● 在宅看護学 Home Care Nursing

教授 小竹 久実子

在宅看護は、療養者と療養者を支える周囲の人々が看護の対象であり、その人の過去、現在、未来を人生ストーリーで捉えることから始まります。看護は、知識・技術・忠恕(誠実で相手を思いやる心)の心をもって関わる中で生まれてくるヒューマンケアリングです。それには、生活の視点をもつことが重要です。在宅看護学分野では、看護力を高めるために、あらゆる面から科学的に探究しています。2020年度から在宅看護のリーダーを育てるための在宅看護学特別教育プログラム奨学金制度がスタートしました。訪問看護や病院およびへき地医療ケアを体験できるプログラムです。興味のある方は是非いらしてください。

研究テーマ

量的研究：「喉頭摘出者の術前から退院1年後までの心理的適応とQOLとソーシャルサポートに関するRandomized Controlled Trial研究」分析
⇒多変量解析：共分散構造分析等
質的研究：「在宅療養移行期にある喉頭摘出者の生活のプロセス」分析
⇒M-GTA

● 周麻酔期看護学 Perianesthesia Nursing

教授 川口 昌彦

周術期、集中治療、疼痛管理などの周麻酔期管理では多職種チーム医療が推進されています。周麻酔期看護師はチーム医療の牽引役として、医療の質、医療安全、アウトカムの向上を目的とした活動を行います。疼痛緩和、合併症予防、患者満足度の向上、早期回復、生活機能の維持などを指標とした研究を行っています。周術期管理におけるコホート研究も実施しています。

研究テーマ

「周麻酔期管理における医療の質・医療安全・アウトカムに関する研究」

● がん看護学 Cancer Nursing

今年度は募集しません。

看護学コース・助産学実践コース

● 女性健康・助産学 Women's Health & Midwifery

教授 五十嵐 稔子 女性健康学専攻・周産期看護学専攻
Women's Health Nursing / Perinatal Nursing

女性が持っている「産む力」を最大限に発揮できる環境を追求し、女性が望む出産スタイルとその意思決定のプロセスを明らかにすることに取り組んでいます。また、妊婦のセルフケア行動を促すケアに関する研究、妊娠中に心身ともに安定して過ごすためのストレス緩和に関する研究も行っています。

研究テーマ

「出産恐怖感に影響する要因」「女性の望む出産スタイルとその意思決定」
「妊娠期のストレス緩和」「出産時の入院のタイミングと医療介入」

准教授 木村 奈緒美 女性健康学専攻・周産期看護学専攻
Women's Health Nursing / Perinatal Nursing

産後うつや周産期の自死など、周産期のメンタルヘルスが問題となっています。本来であれば、子どもが生まれ、喜びや将来に対する楽しみでいっぱいになるところですが、親となることへの不安、育児の悩みを抱える親が増加しています。誰もがそうな可能性があることから、予防的視点に立ち、子どもを持つことや育児をポジティブに捉えることができるような研究に取り組んでいます。

研究テーマ

「産後うつの予防」
「親役割を向上するためのITを活用したプログラムの構築」

施設紹介

Facilities



大学院生研究室

大学院生研究室では、それぞれが授業に向けての資料作成や論文執筆のための文献検索を行うことができます。また、同期の仲間とのコミュニケーションの場でもあります。



附属図書館

図書10万冊、雑誌5千誌を所蔵し、看護系電子ジャーナルは1400誌以上、CINAHL、医中誌などのデータベースも利用できます。館内は無線LAN完備、休日も含め一年の大半を利用できます。



附属病院NICU・GCU

助産学実践コースの実習先の1つです。ハイリスク妊産婦や新生児への最先端の治療を知り、助産師としてのケアを学びます。また、総合周産期母子医療センターも併設されています。

年間スケジュール (R7.4.1 現在)

看護学コース

- 入学式・健康診断
- 履修科目決定

●前期授業終了

授業と仕事の両立に奮闘

授業の数が多く、仕事や休日は課題に追われることが多くなります。大変ですが、専攻が様々な同期と学ぶ中、新しい発見ができ看護の視野が広がります。

●後期授業開始

- 修士論文・課題研究成果物研究テーマ(仮)提出

研究テーマの決定

1回生の後期は授業とともに、研究計画書の作成を中心に行います。前期のみの授業も多く、授業の数は少し減ります。

- 修士論文・課題研究成果物研究計画書提出・研究活動開始(～9月)
- 冬季休業

- 医の倫理審査委員会
- 後期授業終了

- 修士論文・課題研究成果物研究協力施設への説明

●春季休業

1年次

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

助産学実践コース



- 入学式・健康診断
- 履修科目決定
- 実習(助産学実習Ⅰ)

- 臨地実習研修

●前期授業終了

実習(助産学実習Ⅱ～Ⅳ)

1年次の9月～12月までの病院実習です。この実習期間中に、11例のお産を直接助産者として受け持たせていただきます。

- 課題研究成果物研究テーマ(仮)提出

●後期授業開始

- 研究担当教員決定・課題研究成果物計画書作成

- 実習(助産学実習Ⅱ～Ⅳ)

※12月まで(病院)

- 課題研究成果物研究計画書提出
- 冬季休業

研究活動

1年次の12月頃に研究計画書を完成させ、2年次から本格的に研究活動が開始します。実習と並行しての活動なので時間配分が重要な鍵です。

- 春季休業
- 研究活動開始

- 医の倫理審査委員会
- 後期授業終了

在学生の声



看護学コース
在宅看護学専攻
2年
鍾家軍さん

「What is nursing? もう一度看護を学んで看護視点を再考し、豊かな学生生活と研究活動へ」

大学院を通じて、現在スコーピングレビューをまとめ学術誌に投稿しています。看護実践において生活や社会的視野を欠いていたことに気づき、学習を通じて視野を広げることができています。これからは、看護実践を行いながら研究者として努力したいと思います。

ある1日のスケジュール *1年前期の場合

9:30 ~ 10:00
日本語のシャドーイング

11:30 ~ 12:30
お昼休憩

10:10 ~ 10:40
在宅看護学特論の学習

13:00 ~ 15:00
在宅看護学特論

10:50 ~ 11:20
英語のシャドーイング

15:10 ~ 17:50
各資料の作成

私の時間割 *1年前期の場合

	1	2	3	4	5	6	7
MON	在宅看護学特論	在宅看護学特論					
TUE			在宅看護学演習	在宅看護学演習		看護理論	看護研究方法論
WED					アドバンストフィジカルアセスメント	睡眠学特論	睡眠学演習
THU							
FRI							



助産学実践コースでは、授業や実習を通して実践的な学びを多く経験することができ、助産師としての責任ややりがいを実感することができます。学びの中で大変なこともあります。同じ助産師を目指す仲間と支え合い高め合いながら日々過ごしています。

私の時間割 *1年前期の場合

	1	2	3	4	5	6	7
MON	周産期看護学 特論	女性健康学 特論	助産学特論 Ⅰ	助産学特論 Ⅳ			
TUE	助産診断・ 技術学演習 Ⅰ	助産診断・ 技術学演習 Ⅰ	助産学特論 Ⅲ			看護理論	看護研究方 法論
WED		助産学特論 Ⅵ	周産期健康学 演習	女性健康学 演習	アドバンスト フィジカル アセスメント		
THU	助産診断・ 技術学演習 Ⅱ	助産診断・ 技術学演習 Ⅱ	助産診断・ 技術学演習 Ⅲ	助産診断・ 技術学演習 Ⅲ			
FRI	助産学特論 Ⅱ	助産学特論 Ⅱ	助産診断・ 技術学演習 Ⅳ	助産診断・ 技術学演習 Ⅳ			

博士後期課程

教育研究上の理念

奈良県立医科大学は、「豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指す」という教育理念のもとに、教育・研究を展開し地域社会に貢献してきた。

本研究科博士後期課程では、この理念を基盤に、豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される学識を有し、実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して研究・教育を行うに必要な、高度な能力を有する人材の育成をめざす。

教育目的

- (1) 優秀かつ柔軟な資質を併せもち、生涯にわたって自ら学び、看護学の発展を牽引できる人材を育成する。
- (2) 深い専門知識や技能を持って、国際的視野から幅広く看護学を探究できる研究者・教育者を育成する。
- (3) 人間性豊かな高い倫理観に基づいた高度な看護実践能力と創造的な研究能力をもって地域・社会に展開できる人材を育成する。

アドミッション・ポリシー

Admission Policy

- 1 豊かな感性・人間性と生命倫理や医療倫理を身につけている人
- 2 看護学に対する深い関心があり、専攻する学問分野の専門知識と応用能力を身につけている人
- 3 学際的・国際的視野を持ち、自ら進んで課題に取り組む意欲と探究心がある人
- 4 看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会に貢献する意志があり、牽引することができる人

カリキュラム・ポリシー

Curriculum Policy

教育理念・目的に基づき、豊かな感性、人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化、専門分化および多様化していく医療に要求される学識を修得、発展させながら、実践科学としての看護学の深奥を極め、自立して研究を行うに必要な、高度な能力を育成するために2つの分野を設けカリキュラムを配置する。

- 1 様々な健康レベルや健康に対するニーズを持つ人のライフサイクルに応じ、より個別性を見据えた健康回復・維持・増進に対応するため、生涯発達看護学分野及び療養・生活支援看護学分野を設ける。生涯発達看護学分野は、発達し続ける人間の存在に対する深い理解を基盤に看護を探究する分野であり、療養・生活支援看護学分野は、人々の生活を基盤に高度な専門性と実践を探究する分野である。
- 2 系統的・段階的に学修できるよう、教育課程では共通科目、専門科目及び研究科目の3つの区分を設け、専門科目及び研究科目に生涯発達看護学分野及び療養・生活支援看護学分野を配置する。
- 3 共通科目は、必修科目として、実践科学としての看護学の学識を深めるため看護の理論と概念を配置し、研究遂行の基盤を養うため看護学研究法を配置する。
また、選択科目として、高度な病態生理学的思考を養うため看護病態学を、国際的な発信力を養うためアカデミックライティングを、地域及び国際社会に活用可能なケアシステムを創造する能力を養うため看護ケアシステム開発を、生涯教育としての教育のあり方を探究する能力を養うため看護人材育成論を配置する。
- 4 専門科目は、看護学の発展に寄与する創造的な研究課題を導き出し、研究に取り組む能力を養うため分野ごとに特論を配置し、医療、看護に関する深い学識と幅広い視野から自立して研究及び教育を行う能力を養うため分野ごとに演習を配置する。
- 5 研究科目は、高度専門職業人及び研究者としての高い倫理観と、創造的な研究を看護実践につなげ、地域・社会に展開できる能力を養うため分野ごとに特別研究を配置する。

【教育方法】

授業形態は講義・演習とし、主体的な学習を推進するために、アクティブラーニングを基本とする多様な学修方法の提供を行う。

【教育評価】

学習成果は、授業における授業貢献度、課題、レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、中間報告会及び研究成果等で総合的に評価する。

ディプロマ・ポリシー

Diploma Policy

看護学研究科博士後期課程においては、所定の単位を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格することが、課程の修了と学位授与の必要条件である。修了時には以下の能力が求められる。

- 1 高度化・専門分化及び多様化していく医療に要求される学識を有し、看護学の発展を牽引できる能力を修得している。
- 2 深い専門知識や技能を持って、国際的視野から幅広く看護学を探究し、自立して研究及び教育を行うことができる能力を修得している。
- 3 豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観に基づき、創造的な研究を行い、看護実践につなげ、地域・社会に展開できる能力を修得している。

- 小児看護学
- 健康科学（心と脳の発達学）
- 高齢者看護学
- 女性健康・助産学

生涯発達看護学分野は、人間を「生涯発達し続ける存在」という観点からとらえ、受胎から死に至るまでの人間の発達段階及び発達課題を理解し健康と生活を統合的に追求する看護学分野です。人々の発達や課題、老いや障害とともに生活する人々の健康状態・生活行動からその特性や課題を明らかにします。また、その特性や課題と少子・超高齢化との関連や影響を考慮し支援方法・方策を検討することで看護を探究します。

- 看護実践応用学
- 健康科学（睡眠科学）
- 基礎看護学
- 在宅看護学

療養・生活支援看護学分野は、人々が生活する場にとらわれず、病状の回復・安定と療養生活の質の維持向上を支援する看護を探究する分野です。健康障害や治療により生活に様々な影響を受けながら療養する人々を専門的知識をもとに論理的に理解したうえで、課題や苦痛を考察し、療養者やその家族に対してQOL（生活の質）の視点に立ち、高度な専門的知識・技術を有する看護実践を検討することで看護を探究します。

時間割（参考：令和7年度）

Timetable

前期			5(16:20~17:50)	6(18:00~19:30)	7(19:40~21:10)	後期			5(16:20~17:50)	6(18:00~19:30)	7(19:40~21:10)
MON	1年					MON	1年				アカデミック・ライティング
	2年						2年				
	3年						3年				
TUE	1年					TUE	1年	看護ケアシステム開発	看護の理論と概念		
	2年	療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）					2年	療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）			
	3年	療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）					3年	療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）			
WED	1年			看護学研究法	療養・生活支援看護学分野特論・演習（健康科学（睡眠学））	WED	1年	療養・生活支援看護学分野特別研究（基礎看護学）			生涯発達看護学分野特論・演習（高齢者看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習（女性健康・助産学） 療養・生活支援看護学分野特論・演習（健康科学（睡眠学））
	2年						2年				療養・生活支援看護学分野特別研究（健康科学（睡眠学））
	3年						3年				療養・生活支援看護学分野特別研究（健康科学（睡眠学））
THU	1年	療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学） 療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学） 療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）	生涯発達看護学分野特論・演習（小児看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習（健康科学（心と脳の発達学）） 生涯発達看護学分野特論・演習（高齢者看護学） 生涯発達看護学分野特論・演習（女性健康・助産学）			THU	1年	看護病態学	生涯発達看護学分野特論・演習（小児看護学） 生涯発達看護学分野特別研究（健康科学（心と脳の発達学））	療養・生活支援看護学分野特別研究（看護実践応用学）	
	2年	療養・生活支援看護学分野特別研究（基礎看護学）			生涯発達看護学分野特別研究（小児看護学） 療養・生活支援看護学分野特別研究（健康科学（睡眠学）） 生涯発達看護学分野特別研究（高齢者看護学）		2年	療養・生活支援看護学分野特別研究（基礎看護学） 生涯発達看護学分野特別研究（小児看護学） 生涯発達看護学分野特別研究（女性健康・助産学）		生涯発達看護学分野特別研究（高齢者看護学）	
	3年	療養・生活支援看護学分野特別研究（基礎看護学）			生涯発達看護学分野特別研究（小児看護学） 療養・生活支援看護学分野特別研究（健康科学（睡眠学）） 生涯発達看護学分野特別研究（高齢者看護学）		3年	療養・生活支援看護学分野特別研究（基礎看護学） 生涯発達看護学分野特別研究（小児看護学） 生涯発達看護学分野特別研究（女性健康・助産学）		生涯発達看護学分野特別研究（高齢者看護学）	
FRI	1年			看護人材育成論	看護ケアシステム開発	FRI	1年		看護人材育成論		
	2年	生涯発達看護学分野特別研究（女性健康・助産学）			生涯発達看護学分野特別研究（健康科学（心と脳の発達学））		2年			生涯発達看護学分野特別研究（健康科学（心と脳の発達学））	
	3年	生涯発達看護学分野特別研究（女性健康・助産学）			生涯発達看護学分野特別研究（健康科学（心と脳の発達学））		3年			生涯発達看護学分野特別研究（健康科学（心と脳の発達学））	

前期		1(9:00~10:30)	2(10:40~12:10)	後期		1(9:00~10:30)	2(10:40~12:10)
SAT	1年		療養・生活支援看護学分野特論・演習（在宅看護学）	SAT	1年		療養・生活支援看護学分野特論・演習（在宅看護学）
	2年	療養・生活支援看護学分野特別研究（在宅看護学）			2年	療養・生活支援看護学分野特別研究（在宅看護学）	
	3年	療養・生活支援看護学分野特別研究（在宅看護学）			3年	療養・生活支援看護学分野特別研究（在宅看護学）	

※年間スケジュールについては、今後、変更される場合があります。

時 期	事 項	概 要
1 年 次	4 月	オリエンテーション
	4 月	指導体制の決定
	4 月	履修計画
	9 月	研究計画書の作成
	1 月	研究計画報告会
	2 月	医の倫理審査委員会に申請
	3 月	研究活動Ⅰ
2 年 次	9 月 又は 2 月	中間報告会
	9 月 又は 2 月	研究活動Ⅱ
3 年 次	4 月	研究活動Ⅲ
	1 月	学位申請
	2 月	資格審査
	2 月	予備審査
	2 月	公聴会
	3 月	本審査

在学生の声

From Students



療養・生活支援
看護分野
看護実践応用学
堀井 えりなさん

「論理的思考力を身につけ、 看護実践の場に還元する力を養う」

私は本学の修士課程を修了しました。修士課程では、指導教員からの指導に加えて同期や他大学の院生と議論し研究方法や分析などの理解を深めることができました。博士後期課程においても、これまでの学びや繋がりを活かし日々の研究や学習に取り組んでいます。

私の時間割 *1年前期の場合

	1	2	3	4	5	6	7
MON							
TUE						看護学研究法	
WED					療養・生活支援看護学分野 特論・演習 (看護実践応用学)		
THU							
FRI							

ある1日のスケジュール *1年後期の場合

8:30 ~ 17:15
勤務大学での勤務

19:40 ~ 21:10
アカデミックライティング

18:00 ~ 19:30
看護の理論と概念

生涯発達看護学分野

● 小児看護学 Child Health Nursing

教授 川上 あずさ

子どもと家族を発達する存在ととらえ、発達を多角的に理解したうえで、看護の専門性を考慮し、研究に関連する課題や現象を焦点化します。子どもと家族の潜在している能力の発揮、関係性に注目し、自閉スペクトラム症(ASD)児を中心に発達障害の子どもとそのきょうだい、家族を支援するための課題の明確化と方策の検討に関する研究を進めます。

研究テーマ

「発達障害児のきょうだい・家族支援」
「家族のもつ「生活と存在のまもり」支援のための実践モデル構築」

● 健康科学 Health Science

教授 太田 豊作

心と脳の発達学専攻 Human Mind and Brain Development

人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から研究し、その両者の統合を図ります。特に児童思春期の神経発達症や精神疾患を中心に先進的な医療機器による生物学的研究を行っています。

研究テーマ

「神経発達症(ASD・ADHD)に関する事象関連電位の研究」
「神経発達症(ASD・ADHD)に関する光トポグラフィー(NIRS)の研究」
「児童思春期精神疾患の発症予防に関する生物学的研究」

● 高齢者看護学 Gerontological Nursing

教授 澤見 一枝

高齢者看護学では、医療の高度化・専門分化及び多様化に応じて求められる学識を習得し、高齢者看護学の発展を牽引する創造的な研究を行うことを目指しています。高齢者や介護者に関する看護やシステムを充実・発展・革新させていくための研究を計画、実践し、その成果を活用できることが到達目標です。

研究テーマ

「高齢期の健康課題の関連要因とケア」
「要介護高齢者の介護者の状況と支援」

● 女性健康・助産学 Women's Health & Midwifery

教授 五十嵐 稔子

出産施設の集約化や高度生殖補助医療の進歩、家族の多様化など、妊娠・出産育児にまつわる環境が大きく変化する中、女性や家族が持っている力を最大限に発揮できる助産ケアを追求し、女性が望む出産スタイルとその意思決定のプロセスを明らかにすることに取り組んでいます。また、妊婦のセルフケア行動を促すケアに関する研究、陣痛発来時における入院のタイミングと分娩時の医療介入に関する研究も行っています。

研究テーマ

「出産恐怖感に影響する要因」「女性の望む出産スタイルとその意思決定」
「妊娠期のストレス緩和」「出産時の入院のタイミングと医療介入」

療養・生活支援看護学分野

● 看護実践応用学 Applied Practical Nursing Science

教授 石澤 美保子

看護実践応用学の博士後期課程では、前期課程より高度な視点で、EBNにおける前景疑問から自身の臨床上の疑問を明確にし、research questionを決定したのち、研究を計画・実施の遂行能力を養っていきます。臨床スキンケア関連、褥瘡および難治性創傷の予防と管理、ストーマや瘻孔、排泄管理の3分野(Wound:創傷、Ostomy:ストーマ、Continence:失禁)を主に研究しています。

研究テーマ

「在宅療養者における医療関連機器圧迫創傷の有病状況とケアの現状」
「ストーマ局所条件と装具の耐久性の関連」ほか

● 健康科学 Health Science

教授 山内 基雄

睡眠学専攻 Integrated Sleep Medicine

生命維持および心身の健康に不可欠である睡眠をキーワードに掲げ、不適切な睡眠が心身に及ぼす影響、様々な疾患や病状が睡眠に及ぼす影響、さらには睡眠時無呼吸症候群をはじめとした多彩な睡眠関連疾患診療における“アンメット・メディカル・ニーズ”を看護師の視点から見つけ出し、看護学実践介入に必要なエビデンス構築のための研究を行っています。

研究テーマ

「CPAPアドヒランスの現状と改善策」
「睡眠関連疾患に対する看護実践介入についての研究」
「睡眠衛生と心身の健康との関連についての研究」

● 基礎看護学 Fundamentals of Nursing

教授 松田 明子

この研究分野では、在宅・外来・病棟のあらゆる場の治療を受けている療養者に対する看護援助に対して薬理学的視点や安全管理等の視点で分析し看護の役割について探求します。また、看護実践能力の向上を目的とした看護教育に関する研究では、看護薬理学教育に関する研究について探求しています。

研究テーマ

「薬物療法を受ける患者への支援に関する研究」
「薬理教育に関する看護教育の研究」

● 在宅看護学 Home Care Nursing

教授 小竹 久実子

在宅看護は、全年齢でその療養者と療養者を支える周囲の人々が看護の対象です。その人の過去、現在、未来を人生ストーリーで捉えて関わるのが大切です。共感援助に関する研究も行っていますが、共感援助になる要素はその人を全人的に人生ストーリーで理解することがアウトカムである構造も明らかになってきています。看護は、知識・技術・忠恕(ちゅうじょ:誠実で相手を思いやる心)の心をもって関わるヒューマンケアリングです。在宅看護学分野では、看護の本質を見出すために、言葉の概念を明確化しながら、あらゆる面から科学的に探究しています。新奇性のある研究をしていき、奈良から世界へ看護研究を発信していきましょう。

研究テーマ

量的研究:

「喉頭摘出者の術前から退院1年後までの心理的適応とQOLとソーシャルサポートに関するRandomized Controlled Trial研究」

⇒多変量解析:共分散分析、重回帰分析、因子分析、共分散構造分析等

質的研究:

「在宅療養移行期にある喉頭摘出者の生活のプロセス」

⇒質的分析:M-GTA (Modified Grounded Theory)



新キャンパス 施設紹介





実習研究棟外観



助産実習室



助産実習室



大学院生研究室



大階段



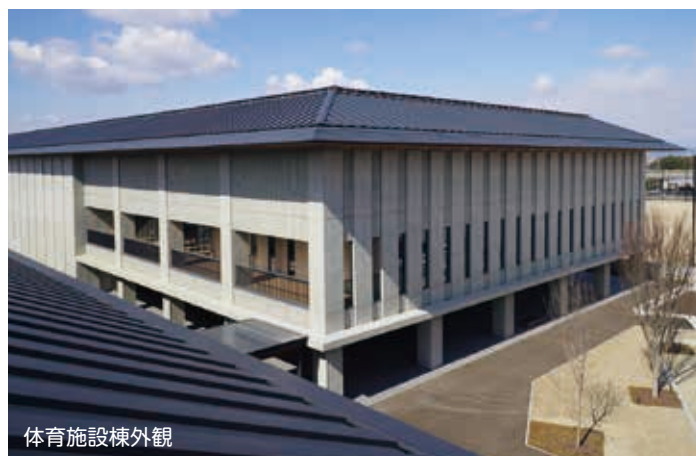
ラーニングコモンズ



ラーニングコモンズ



講義棟外観



体育施設棟外観

1. 修業年限及び学位

【博士前期課程】 修業年限：2年 学位：修士（看護学） 【博士後期課程】 修業年限：3年 学位：博士（看護学）

2. 取得できる資格等

助産学実践コース：助産師国家試験受験資格、受胎調節実地指導員、新生児蘇生法「専門」Aコース修了認定証

高度実践コースの高度実践看護師教育課程：日本看護協会 高度実践看護師教育課程（専門看護師）認定審査受験資格※

※専門看護師認定審査を受けるためには、所定の単位取得の他に実務研修が通算5年以上あり、うち3年間以上は専門看護分野の実務研修であることが必要です。

高度実践コースの周麻酔期看護師教育課程：修了時は本学大学院看護学研究科周麻酔期看護師として認定されます（本学認定）。

入試案内

Entrance examination Information

1. 専攻課程及び募集人員

【博士前期課程】

専攻	コース	専攻	募集人員
看護学	看護学コース 論文コース	【領域】 健康科学、薬理と看護学、実践基礎看護学、看護実践応用学、[がん看護学]、高齢者看護学 小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学、在宅看護学、女性健康・助産学	5
	高度実践コース	高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野、[がん看護分野]）	
		周麻酔期看護師教育課程	
	助産学実践コース	【領域】 女性健康・助産学	5

論文コースの[がん看護学]及び高度実践コースの[がん看護分野]は募集しません。

【博士後期課程】

専攻	分野	専攻領域	募集人員
看護学	生涯発達看護学分野	小児看護学、女性健康・助産学、健康科学（心と脳の発達学）、高齢者看護学	2
	療養・生活支援看護学分野	看護実践応用学、健康科学（睡眠学）、基礎看護学、在宅看護学	

2. 試験日 [共通]

一次募集 令和7年8月25日（月）

二次募集 令和7年12月1日（月）

※一次募集の結果により、二次募集を実施しない場合があります。

3. 入学者選抜方法

【博士前期課程】 学力検査（専門科目、英語）、面接試験の結果及び出願書類等を総合的に判定して行います。

※入学試験の日程等詳細については、募集要項で必ず確認してください。

（注）募集人員に社会人を含みます。ただし、高度実践コース（クリティカルケア看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者としします。

【博士後期課程】 学力検査（英語）、口述試験の結果及び出願書類等を総合的に判定して行います。

（注）募集人員に社会人を含みます。

1. 入学検定料 30,000 円

2. 入 学 料 282,000 円

3. 授 業 料 535,800 円（年額）2 期（4 月、10 月）に分けて徴収します。

※ R7.4.1 現在の金額

※在学中に授業料の改定が行われた場合には、当該改定時から新授業料が適用されます。

修学支援制度

Study support system

1. 長期履修制度

職業を有する等の事情により標準修業年限（博士前期課程：2 年、博士後期課程：3 年）で修了することが困難な学生を対象とし、長期にわたる計画的な教育課程の履修を認める制度です。

【長期履修期間】 博士前期課程：3 年、博士後期課程：6 年

【対象者】 博士前期課程：看護学コースの入学資格を有する者のうち、職業を有する者。

※助産学実践コースについては、長期履修制度は適用されません。

博士後期課程：職業を有する者。

【授業料】 標準修業年限（博士前期課程：2 年、博士後期課程：3 年）を超える履修期間は授業料を徴収しません。

【その他】 事前に指導教員との相談や申請書の提出が必要になります。

2. 入学料免除制度

【博士前期課程】

本学学部からの進学者、看護系大学を卒業又は卒業見込みで奈良県内に住所を有し経済的要件を満たす者、奈良県内看護系大学を卒業又は卒業見込みの者で経済的要件を満たす者については入学料が免除される制度があります。

【博士後期課程】

本学大学院博士前期課程からの進学者、奈良県内に住所を有し経済的要件を満たす者については入学料が免除される制度があります。

3. 授業料減免制度

学業が優秀で、かつ、経済的理由により授業料の納付が困難な学生の修学を支援する制度として、授業料の全額又は半額が免除される制度があります。

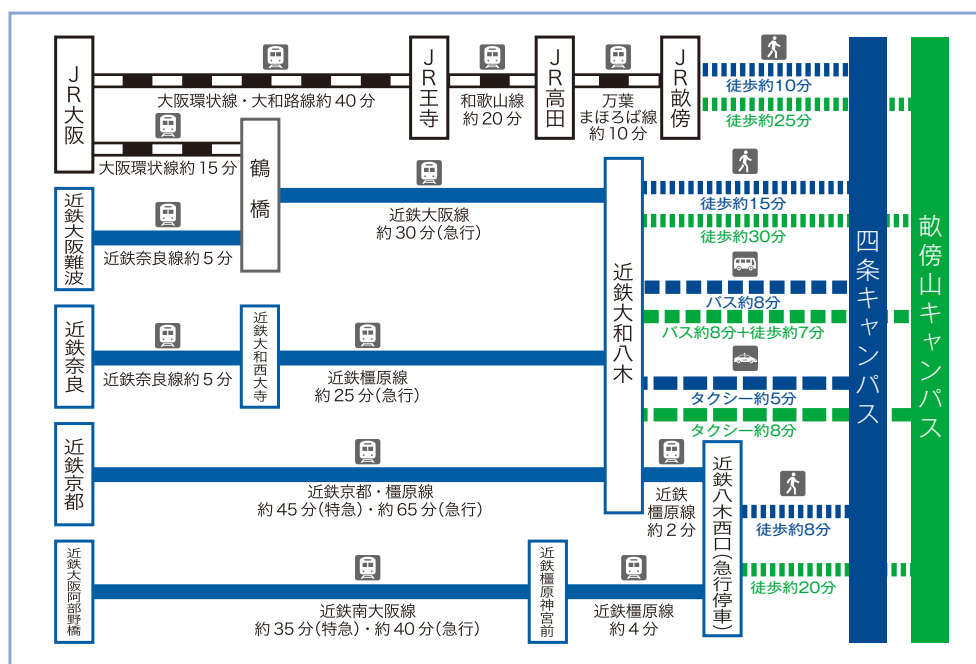
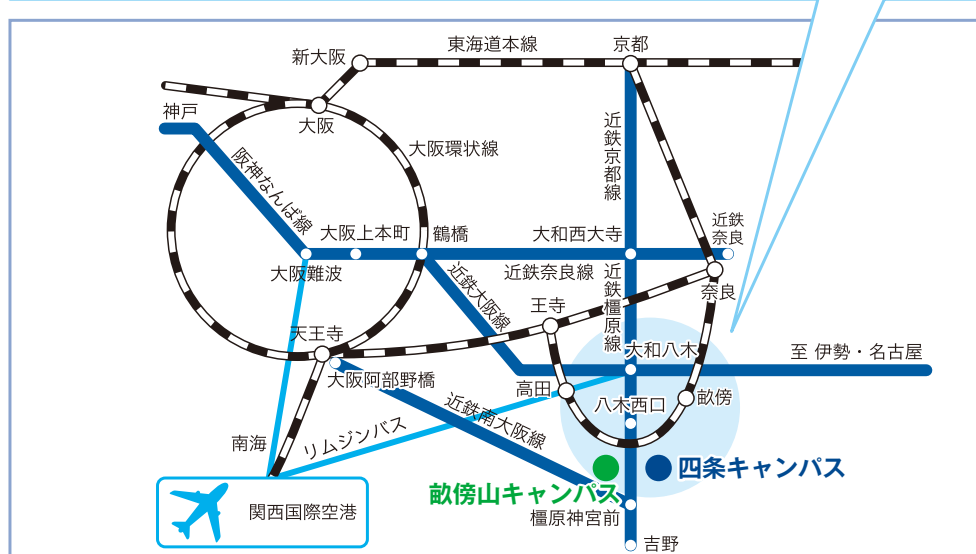
4. 奨学金

学業成績が優秀で経済的理由により学資支援が必要な者には、選考により貸与される日本学生支援機構奨学金があります。

	第一種奨学金（無利息）	第二種奨学金（利息つき）
博士前期課程	50,000 円又は 88,000 円	貸与月額は、5、8、10、13、15 万円の中から選択できます。 在学中は無利息、卒業後年利 3%を上限とする利息がつきます。
博士後期課程	80,000 円又は 122,000 円	

5. 在宅看護人材育成支援修学資金制度【博士前期課程】

将来県内において在宅看護を牽引するリーダーとなる意思を持つ学生に対し、1 年間または 2 年間、月 10 万円の修学資金を貸与する制度があります。在宅看護に関する特別教育プログラムを受講し、附属病院及び在宅看護実践現場で一定期間就業した場合は、返還免除となります。



奈良県立医科大学
Nara Medical University

〒634-8524 奈良県橿原市四條町 88 番地
奈良県立医科大学 教育支援課
敵傍山キャンパス事務室 看護学研究科入試担当
【TEL】 0744-29-8917 【時間】 9:00～17:00 (平日)

令和 7 年 6 月発行
教員名、学生の学年などは、
令和 7 年度当時のものです。